

令和6年度 第3回 郡上市地域公共交通会議（要録）

○会議名称 令和6年度 第3回 郡上市地域公共交通会議

○開催日時 令和7年1月30日（木）午前10時00分～午前11時45分

○開催場所 郡上市産業プラザ4階交流ホール

○協議事項

議案第1号 令和6年度郡上市地域公共交通会議補正予算について

議案第2号 郡上市地域公共交通計画の評価について

議案第3号 令和6年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

○出席委員 山川弘保市長、尾藤安正、平岩憲政、木村治史、田中秀昭、大西春子、田中康裕、佐藤宗春、福手 均、古川浩二、笠野信男、池戸祐芳、武藤里恵、下谷和宏、下平真一郎、臼田博明（代理）、野田なつみ（代理）、瀧 大活（代理）、小椋一平（代理）、前田茂朗（代理）、倉内文孝、佐々木綱行、池田喜八郎、恩田邦生 計24名

○欠席委員 3名（谷澤周作、加藤亮太、大江裕之）

○出席職員 （事務局：市長公室企画課・各振興課） 計10名

市長公室長 河合保隆、企画課長 鷺見一久、交通対策係長 曾我篤志、主任 村山尚也、大和交通担当 畑中義史、白鳥交通担当 瀧下亜由佳、高鷺交通担当 長谷川優美、美並振興課長 水口裕史、明宝交通担当 青木昭博、和良交通担当 藤代雄二

1. 開 会 （司会）

2. あいさつ 会長 山川弘保 郡上市長

おはようございます。公共交通については、国土交通省では「WISENET（ワイズネット）2050」という構想を立て、国の高速交通網の整備を始めた。GDP は人の移動距離に比例するため、人がいないところに高速交通網を張り巡らせることにより、人の移動距離を増加させ国力の強化を図るためとのことである。郡上市においても、八幡町の堀越峠の事業が直轄となった。

人口減少や、高齢化等の様々な課題がある中、1度決めた政策をそのまま続けるのではなく、常に見直していくことが必要だと考えている。例えば、バス停の位置はそのままがいいのか。その地域の住民の状況を把握することや、タクシーはどういった使い方をしたらいいのか。そういったことも含め、皆様とこれからの郡上市の公共交通を今一度考えていきたいと思っているため、皆様のお知恵を拝借し、有意義な会になるようよろしくお願い申し上げます。

3. 協議事項

議案第1号 令和6年度郡上市地域公共交通会議補正予算について 事務局より資料1に基づき説明

委員A 補足説明をさせていただくが、これまで国土交通省からバスを運行している事業者へ直接支払いをしてきたが、昨今、公共交通計画を定めて計画と連動性を持たせるようになってきたところである。その計画に基づく運行のため、地域公共交通会議の口座に一旦お支払いするという立て付けとなったため、手続の面ではご面倒をお掛けするがご理解いただきたい。

※原案のとおり承認

議案第2号 郡上市地域公共交通計画の評価について 事務局より資料2に基づき説明

委員A 1頁目【3】と【4】の幹事会での意見の中に、高齢者に対し公共交通の周知が行き渡っていないとあるが、何曜日に運行しているか分からない、家の近くのバス停が分からない、ルートでどこまで行けるのか分からないなど、聞き取りの中で具体的に分からないポイントがどうであったか教えていただきたい。また、分からないポイントに対してどう周知していくか考えがあれば教えていただきたい。

事務局 幹事会の中では、そのような課題の掘り起しから全市的にアプローチをかけて欲しいというものであった。具体的な事例を挙げると、小那比美並乗合タクシーというデマンド型のタクシーがあり、運行前から該当地区へチラシを配布し周知を行ってきたが、なかなか

利用してもらえないという実態があった。ある日、該当地区の方からバスを通してほしいと要望があったが、小那比美並乗合タクシーの存在が知られていないが故の要望であった。自治会長に話をし、実際に乗りたいと言われる方と直接話をさせてもらったところ、利用していただけるようになったことも事例としてあった。地味な方法ではあるが、繰り返し周知を図ることや、高齢者サロンといったところにも赴いて意見等を聞いていけたらと思っている。

委員B 今回の評価が概ね「A・B・C」とあり、できたもの・ある程度できたもの・課題が残ったものと理解したが、来年度の組み立てはC評価のものは持ち越しとなるのか。来年度の事業の組み立て方法について教えていただきたい。

事務局 この郡上市地域公共交通計画は5カ年計画であり、令和9年度に向けてSを目指す、又はAを目指すという評価となる。当然ながら、C評価については来年度少しずつでも取り掛かっていきたいと考えている。また、委員の皆様の意見も来年度以降の取組みの参考とさせていただきたいと思っている。

委員B 時代や状況の変化で新たな課題も加わってくるかと思うが、C評価となった事業については、重点的にやっていくといった認識でよろしいか。

事務局 5カ年の計画であるため、一貫性をもってその年の評価を行うが、トータルの評価もしていくこととなる。基本的には、計画書に記載したスケジュールに沿って事業を進めるものであるが、新たな課題が出てきた場合は、柔軟に対応していきたいと考えている。

委員C バスデータの整備については、インターネットで調べても出てこない路線はないものと一緒だとよく言われるが、県のDXアドバイザー派遣制度を活用して進めてもらっていることに感謝申し上げます。高山市では、インバウンドの増加により今まで以上に整備した事も踏まえ、県として勉強会やアドバイザー派遣等引き続きお手伝いさせていただきたい。

※原案のとおり承認

議案第3号 令和6年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

事務局より資料3に基づき説明

委員D 美並巡回バスはフィーダー計画にも上げて力を入れていただいていることは有難いと思う一方、利用者の目標値には達していない状況である。先ほど、八幡地域で民生委員を通じて高齢者へ働きかけをしているという取組みをお聞きし、美並地域においても民生委員の方のお力をお借りし、目標に向けて取り組んでいただきたいと思った次第である。

事務局 美並地域にも交通弱者や移動困難者が多くみえると思っているため、民生委員の方をはじめそういった機会に課題等の掘り起しをしたいと考えている。また、実際に美並巡回バスを利用している方は大体固定しており、1日当たり2～3人程度である。もっと乗車してもらえよう、例えば無料乗車体験等を企画して利用促進出来たらと思っている。

委員E 郡上市内には現在、200近いサロンの登録があり、1万円程度ではあるが社会福祉協議会から助成している。サロンのニーズをお聞きすると、メンバーの高齢化やサロンまで行く手段がないといったことも確かにあるが、自分たちで何とかしようとしている現状が多くある。社会福祉協議会として、サロン会員に交通事情に関する困りごとの声を吸い上げるなど、実情の把握について協力できればと思っている。

委員F どの市町村でもコロナ禍を明けて、利用者が8～9割まで回復している傾向にあるが、美並巡回バスの利用者が少ない原因は何であるか把握していたら教えていただきたい。また、和良線・明宝線と同じように高校生等の通学に利用されているのかそうでないのか教えていただきたい。

事務局 美並巡回バスは、主に通院で利用される方が大半である。利用者が少ない原因は、はっきりと把握できていないが、家族や近所の方に車で連れて行ってもらっているものと思われる。

委員G 明宝線・和良線に関しては、生徒の減少も原因の一つであるが、明宝線で顕著となっているのが、定期券利用が少なく回数券利用が多くなっていることである。明宝地域の方に八幡方面の通勤の家族がいる場合、朝は自家用車で送迎、帰りは回数券でバス利用といった利用形態が顕著である。和良線は、市の通学費助成も相まって定期券の利用は多くなっている。

会長 市長を拝命し10ヶ月が経過した。その中で、昭和・平成から続いてきた多種多様な事業があり、事業の見直しを進め行政改革に取り組もうと思っている。行政改革を進めるにあたり必ず批判の声は出るが、批判の数が多ければ多いほど行政改革が進んでいるのではないかと思い、次世代へ負債を残さないようにしたいと考えている。合併して20年、それほど大きな不満や批判の声は市役所に対してはなかったが、今、たくさんそういった声を頂戴している。市民の方から叱られることを覚悟で進めなければならないことも多々あり、公共交通に関しても貴重なご意見があった。住民が何を望んでいるのか聞き取りを行いつつ、現在の利用状況等をマップに落とし込み、この路線は廃線にした方がいいのか、路線が短くなった分もっと便利な路線が作れるのではないだろうかといったことをしていかなければならないと考えている。その上で一番大事なことは、自治会、地域の協議会の二つが重要となってくる。そこから各種根拠となる資料の提出をお願いし、根拠に基づき公共交通をどう担っていくのか考えていくことが必要となると思っている。

4. その他 亀尾島・有坂乗合タクシーの運行開始について運行事業者より説明

5. 情報交換

委員A 弊社では、乗務員の確保が喫緊の課題となっている。皆さんの意見を聞いていろいろと参考にしていきたい。

委員B 令和7年度に実施していきたい事案を述べさせていただく。まずは、観光需要の掘り起しや高齢者の利用促進を考えているのが白鳥ひるがの線、郡上八幡白鳥線のダイヤ改正である。実際に市外から来訪する方からも、岐阜バスのダイヤが改正されたことにより乗り継ぎがしにくくなったとの意見もあった。2点目は、スクールバスから公共交通への一本化であるが、白鳥中学校の大中方面はスクールバスも郡上八幡白鳥線も同じようなルートのため一本化することにより、運転手1人、スクールバス1台がカットでき、効率化に資すると考えている。3点目は、運賃の値上げである。燃料費がここ数カ月で約16%上昇し、オイル等も高騰している。8年ほど運賃の据え置きをしているが、世の中の实情に合わせて値上げをせざるを得ない時期だと考えている。また、白鳥町デマンドバスについては、運行開始直後は乗り切れないほどの利用があったが、徐々に利用者が減少しているため、サロン等での説明会や乗車体験をしてもらい周知しつつも、本当に利用が少ないのであればスクールバスとの併用も考えていきたい。

委員C 弊社の喫緊の課題としては、乗務員の不足と高齢化である。高齢化はペースも早く、ハローワーク等頻繁に募集を行っているが、若い人の申し込みがない。また、タクシー事業については、今までLPガスを燃料とした車両を使用していたが、市内では取扱店がほぼなくなり、車両更新の際はハイブリッド車若しくはガソリン車へと切り替えを行っている。さらには燃料の高騰をはじめ、人件費の高騰も経営を圧迫している要因である。

委員D 鉄道の運転手は、新しい人材を確保し運転手不足ということはないが、高齢化は顕著である。運転手よりも技術職が不足しており、今まで働いていただいたベテランの方を嘱託として再雇用したりしているため、沿線市町の広報誌等に募集をかけるようなことも考えている。また、最低賃金の上昇に伴い企業全体の賃金アップをしていかなければならないが、毎年大きな赤字を抱えているため難しい課題である。

委員E 白鳥町デマンドバス導入時には、国土交通省とのヒアリングの中で、白鳥町は鉄道・スクールバス・路線バスが整備されており恵まれた地域のため、取捨選択しなければいけないのではないかと意見をもらった覚えがある。当時は高齢者を中心に多くの利用があったが、利用者が減ってきている現状、自治会長会でも話題に取り上げてPRしていくことも必要だと思った。市の財政難の中、長良川鉄道の存続に関しても、通学・通勤での利用が主となっているため、国鉄時代のように「乗って残そう」というのは非常に厳しいものがある。様々な課題があるものの、地域住民との話し合い、協議を大切に進めてほしいと強く思っ

ている。

委員F

日頃から、学生の通学に際し支援・補助等をしていただき感謝申し上げます。第1回郡上市地域公共交通会議の資料の中に、高鷲町の自主運行バスは鷲見線が一人当たり36,504円、鮎立線が一人当たり15,267円と市全体に対して突出しているデータを拝見し衝撃を受けたところである。個人的に各関係者へ話を伺いに行ったところ、鷲見線に関しては利用者がいなくてもマイクロバスで定時運行をしており、鮎立線は、事前に予約をするデマンド型運行とのことである。また、鷲見線は、経年劣化が進み頻繁に故障しているため、メンテナンス費用も相当掛かっていることが分かった。聞き取りの中でいただいた意見をいくつか紹介させていただく。1点目は、鷲見線と鮎立線のダイヤを調整し、両路線を同一車両で運行し、鷲見線のマイクロバスを廃止してはどうかというもの。2点目は、鷲見線を廃線し代わりにタクシー利用に切り替えてはどうかというもの。タクシー利用に切り替えた場合、利用者には現行のバス料金を支払ってもらい、通常運賃との差額分を市が補填すれば鷲見線の一人当たり経費36,504円より安く運行できるのではないかと考える。また、利用者からすると時間や運行経路に縛られず利用できるため利用者の増加も見込めるのではないかと考えている。タクシーへの切り替えでなくとも、鮎立線のようにデマンド型にすることにより臨機応変に対応できるのではないかと感じた。3点目は、スクールバスを活用してはどうかとの意見もあった。スクールバスは児童・生徒専用車となっており、先生も監督者として乗っている。そのため保護者としては安心してバスに乗せることができるが、一般の乗客と混乗するとなると、安全面で懸念されることが考えられる。そこで、一般の乗客は登録制にすることにより、一定の安全面は担保されるのではないかと考える。しかし、スクールバスは路線や時間が曜日によって変更となったり、夏休み等は当然運休となることから、利用しづらい一面もあると考えている。最後に、現在、郡上高校及び郡上北高校の生徒に通学援助費として支援をしてもらっているが、市外へ通学する高校生にも支援を検討いただきたい。少数ではあるが、高速バスや長良川鉄道を利用して通学を予定している生徒もいるため、是非検討してもらいたい。

委員G

今ほど、スクールバスを活用するとの話があったが、その反対で公共交通を利用してもらう方法もある。例えば、白鳥町の牛道地区では、白鳥町デマンドバスが運行しているが、朝と夕方時間帯だけは生徒専用とし、日中は一般の乗客を乗せて走れば混乗せずとも運行が可能となると想定している。警報発令等の緊急時はどうするかといった課題はあるが、そのような方法もあるので、参考にさせていただきたい。

事務局

今ほど、様々なご意見をいただいた中で、高鷲地域においては、今後、PTA会長、地域協議会、運行事業者、高鷲振興課と一緒に検討していきたいと考えている。また、現状把握や分析等の情報は、その都度共有させていただく。

委員H

バス協会としても、運賃の値上げを検討せざるを得ない状況であるとの認識である。今

後、事業者の基盤を支えていくには、運賃の値上げが必要であることはご理解いただきたい。また、運転手不足については、先日東京で「移住フェア」があったので、その結果を報告させていただく。当協会のブースに来られた方は、4名程であった。そのうち一人は、東濃地域へ移住を考えている方、もう一人は西濃地域へのUターンを考えている方であった。これが直接運転手の確保につながるとは言い切れないが、こういった機会に広くアピールしていくことは継続してやっていきたいと思っている。もう1点、運転手不足に伴い、貸切バスの需要が学校からあるが、対応が困難となりつつある。乗合バスと貸切バスを兼務している運転手もいるため、学校行事の平準化をしていただくようお願い申し上げます。

委員 I 公共交通は、地域の実情に合った形態があるため、地域の皆さんの意見を聞きながら進めていくことが大事だと思った。また、国として活用できる制度は何でも使ってもらい、支援していきたいと思っている。

委員 J 本日の会議全般を通して、評価自体は非常に細かく丁寧にされていたことは、評価したいと思う。皆さんの意見にもあったが、この先どうしていくかということはとても大事であり、郡上市地域公共交通計画にどのように記載しているか、ということをつも横目に見ながら議論ができることより有意義な会になるのではないだろうか。会長の話にもあったように、マップに落とし込む作業を行わないと、現状が見えづらくなってしまわないかと私も感じていた。通学の生徒の足を守ることは、非常に重要ではあるが、利用者を通学とそれ以外をまとめて表してしまうと、生徒数が減った・増えたの議論になってしまうため、分けて見ることにより一層議論が深まると思っている。最後に、住民の方からいろんなご意見をいただいているというのは、非常に良いことだと思っている。皆さんが自分事として公共交通を見てくださっているというのがよく分かる。その声を大事にしながら、地道にニーズを把握していくことは、引き続きお願いしたい。

6. 閉 会 副会長

本日の資料の中で、利用者の実績値は前年に比べ少しづつではあるが増えている。これは、今の計画が良い方向へ進んでいると感じている。会長からの話にもあったように、常に見直しが必要で、一つ一つ来年度に向けて見直しをしつつ、より良い公共交通に向け取り組んでいただきたいと思います。